総合計画審議会での主な意見

H24.12.26

グランド・エル・サン

○地域コミュニティ

・学校の統廃合に合わせ、単なる合理化という観点からコミュニティの単位も学区ごとにするようなことはしないで欲しい

・地域コミュニティ基本方針について、社会教育活動部分と自治会活動部分の間の問題がきちんと整理されていないのではないか

○婚活支援

・婚活支援対策がまだ不足しているのではないか

・晩婚化、未婚化の問題については、単に婚活支援として出会いの場を提供するだけでなく、生活のベースとなる部分（雇用環境や子育て環境）をきっちりと整備する必要がある

・婚活支援対策については、農業委員会、JA、商工会議所等様々な組織で実施しているが、関係機関で意見交換しながら進めていく必要があるので、その調整や包括的な情報発信について市にお願いしたい

○防災

・土砂災害ハザードマップの作成について、もう少し迅速に対応して欲しい

・市の防災行政無線の更新について、県でも防災行政無線の更新を検討しているので、そうした情報や専門家の意見を取り入れると、いいものが低コストでできると思われる

・消防団員の担い手確保のため、条例で一定期間の役務について義務化することはできないのか

○エネルギー

・バイオマスエネルギーの活用促進については、需要と供給のバランスの問題もあり、民間だけで進めるのは困難と思われるので、行政としても支援して欲しい

○子育て

・市街地の保育園は定員を超える入所希望者があり、入所できない場合もある中、一方で郊外地では入所希望者が少なく運営が難しくなっているので、スクールバスを活用するなど、市全体で合理的な施設の活用が行われるよう調整を図って欲しい

〇医療

・荘内病院に勤務している医師の入れ替わりが早い。長く勤めてもらえるような対策について一層努力してほしい

・荘内病院について、はじめに病院のシステムありきで通院する患者がそれに合わせられていると感じることがあるので、患者が望んでいることに合わせた安心して利用できる病院の体制をお願いしたい

〇高齢者福祉

・1 人暮らしの高齢者は話し相手を強く求めており、そうした点からも民生委員が行っている愛の一声運動（週 1 回、1 人暮らし高齢者にヤクルトを配りながら安否確認を実施）は大事な取り組みである

〇教育

・小学校教育がしっかりしていれば、色々な人材が育つので、小学校で力のつく教育をがんばってほしい

・小学生以上の子どもたちについて、地域の自然に触れ合いながら学ぶ機会を増やして欲しい

〇高等教育機関

・慶応義塾大学先端生命科学研究所から、世界的な評価を受ける研究成果が出てきており、今後の産業界への波及効果が期待されることから、先行投資を行って欲しい

〇文化会館

・文化会館の改築について、市民や検討委員会からの意見を反映し、機能の充実を図って欲しい

〇農業

・農業関係の雇用の創出や担い手の確保のため、研修制度等の仕組みづくりが必要

・近年の豪雨による被害や農地の立地条件も踏まえながら、水田の畑地化のための排水対策事業を進めてほしい

・中山間地域の農業の振興について力を入れて欲しい（鳥獣被害対策、森林資源の有効活用、適地適作の推進等）

・在来野菜について、種子を絶やすことのないように行政的支援をお願いしたい

・中山間地域を活用し、料理に添えるつまもの（葉っぱ）の売込みを、在来野菜とセットでできないか検討して欲しい

〇鳥獣被害

・有害鳥獣としてのクマ対策について、個体数調査の実施と地域住民への情報提供をお願いしたい
・有害鳥獣駆除の担い手である猟友会会員が減少しているので、何らかのテコ入れが必要

〇森林

・魚の森づくり事業について、対象地域を拡大して事業を推進して欲しい
・善宝寺から尾根を登って由良まで降りていくルートについて、庄内自然博物館構想に加えて整備してはどうか
・親と子どもが自然に触れ合いながら一緒に遊べる場所の地図の作成・普及等を図ってはどうか
・地域産木材の利用の推進について、引き続き取り組んで欲しい
・森に親しむ機会の創出など、森・自然に関連する取組みが多いので、まとめて考えていく必要があるのではないか

〇観光

・山形ディスティネーションキャンーペーンを有効活用し、情報発信・誘客を図って欲しい
・山形ディスティネーションキャンペーンは、交流人口の拡大や地域の活性化に大きく寄与するものと思われるので、地域全体での取組みとなるような体制づくりや予算確保をお願いしたい
・人気を集めている香港トレイルの事例を参考にしながら、大山地域をモデルに取り組んでみてはどうか

〇雇用

・子どもたちが将来大人になった際、自立した生活ができるような雇用環境を確保してほしい

〇空き地・空き家

・新たに制定された空き家条例の周知を図り、空き家の有効活用を進めてほしい
・空き家をうまく活用し、地域の高齢者の集いの場を設けてほしい
・わざわざ郊外地を新たに開発するのではなく、既存インフラを有効活用できる中心市街地の空き家・空き地を活用するなど、中心市街地の活性化と空き家対策については、セットで考える必要がある

〇交通
・高齢者のための公共交通対策について、デマンドバスの導入など積極的に取り組んで欲しい
・公共交通が充実していないことから、高齢になっても運転免許を手放すことができず、それが高齢者の自動車事故に繋がっている。高齢化社会における公共交通対策は、大きな課題である
・平らな土地であるという特性を生かし、自転車の利用を進めるまちづくりを考えてはどうか

〇除雪
・生活様式の変化（早出、残業、夜勤）に合わせた弾力的な除雪体制を取ってほしい

〇高速交通基盤
・高速交通網基盤整備について、羽越本線の高速化に関する記述だけでなく、羽越新幹線の整備推進に関する記述があってもいいのではないか
・羽越新幹線の整備よりも、日本海沿岸東北自動車道の未整備区間の整備や国道 47 号の高規格化、庄内空港の滑走路の延長といった事業を先に行うべき

〇若者・女性
・地域の活性化のためにも、様々な場面において、もっと 30 代～50 代の人たちの発言の場を設けた方がいいのではないか
・鶴岡まちづくり塾について、活動成果が出ているのでこれからも支援して欲しい。
・若者や女性の意見を吸い上げたり、活動を支える仕組みがもっと必要
・市男女共同参画計画を推進することは、少子化高齢化対策や雇用対策にも繋がるので、一層の予算措置及び施策の展開をお願いしたい

〇協働・ボランティア
・震災被災地支援で盛り上がったボランティア活動のエネルギーを途切れさせないよう、地域の除雪作業や耕作放棄地対策へその力を活用するようなモデルを考えて欲しい

〇職員
・市職員も自分の住む地域の中でコミュニケーションを図るよう努力してほしい。職員の地域担当制度がその土台となるように期待したい
・市職員の資質向上について、スピードが遅い、コスト感覚が無い、うまくいかなくても責任を取る人がいない、と感じられる

〇総合計画全般

・総合計画実施計画の推進については、各担当課ごとに実施しているのが現状であるが、総合的にプロデュースする人を育成する、あるいは仕組みをつくる必要があるのではないか
・総合計画実施計画の実行性確保のため、組織のあり方や見直しの検討が必要
・総合計画実施計画の実効性の確保のため、実施状況について検証、評価する体制を設けたほうが良いのではないか
・総合計画実施計画について、できるだけ具体的な数値目標を提示するようにしてほしい
・これからの計画の策定、実施に当たっては、人口動態の将来予測を示して欲しい
・鶴岡市の将来的な人口動態や疾病率を予測し、それに基づいてどのような施設がどの程度必要か判断し、需給ギャップを発生させないように計画的に整備を進めていく必要がある
・担当者は、担当事業が完了するまでは人事異動を行わないようにした方がいいのではないか

〇まちづくり全般

・合併して全ての地域が同じように扱われがちだが、それぞれ地域の環境も違うので、各地域に合った対応への配慮をお願いしたい
・外部から人が集まってくるような魅力ある鶴岡市となるように、観光振興、産業振興ともがんばってもらいたい
・市の情報を網羅したオフィシャルガイドブックのようなものを作成し、全国への情報発信や市民との情報の共有化に活用すると良いのではないか
・六十里越街道にある案内板は、雪による破損や老朽化を防ぐため、冬期間外している。他のところでも管理の参考にして欲しい